

レガシーシステム刷新ソリューション「マイグレーション2.0」

PL/I to COBOLマイグレーション

PL/Iで開発されたアプリケーション資産を使い続けることによる「制約」を解消!

■何故、PL/I から COBOLへの移行を推奨するのか?

①メインフレームのオープン化の動向から

PL/Iを使い続ける場合 → メインフレーム:○ オープンシステム環境:× (未稼動)

COBOLへ移行した場合 → メインフレーム:○ オープンシステム環境:○

【移行先言語としてCOBOLを選択するポイント】

- ・COBOLはANSI(JIS)でも規定されているグローバルスタンダードな言語。
- ・CODASYL(COBOL委員会)により仕様の改善が継続的に実施。
(ex.近年、オブジェクト指向の機能を導入などトレンドのキャッチアップにも積極的)
- ・COBOL:世界中で使用 PL/I:ほとんど日本のみ(特に「金融」に集中)

②M&A等の企業統合の影響より

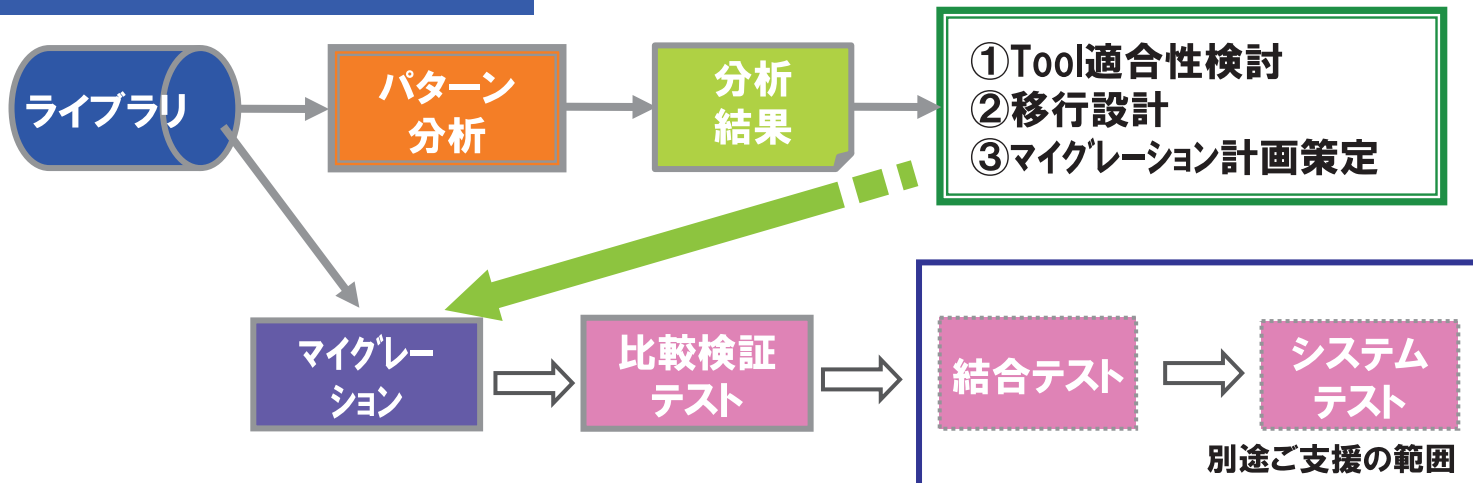
計算機の統合(マイグレーション)が起り、その中の一つとして開発言語の統一の動きへ

■ PL/I とCOBOL 特徴の比較

	PL/I	COBOL
省略時の解釈	多:製作に便利	殆ど無い:保守に便利
冗長性	殆ど無い:製作に便利	有:ドキュメント性に優れ保守に便利
機能	多: もともとCOBOLを凌ぐ目的で作られた	言語仕様を拡張し、遜色の無いレベルになってきた。 例)部分参照、関数の使用、アドレス定数 COBOL in COBOL 等
デバッガ等のサポート機能	小	多:パッケージが多数存在



PL/I から COBOLへの移行モデル(※弊社担当範囲)



システムズでは、マイグレーションにおける**経験・ノウハウ**を活かし**異種言語移行**のご支援をいたします。

※)当サービスの実施費用については、別途お問い合わせください。

PL/I to COBOLマイグレーション

システムズ 移行作業 の特長

①調査・分析フェーズ

全移行対象の「パターン分析」を行うことにより、変換仕様の欠落を防止。

②移行フェーズ

- 1) 自動化:お客様のアプリケーション特性で移行ツール必要機能を検証し、自動化。
- 2) 品質確保:総ての作業について「詳細手順化」を図り、作業の品質確保を実現

③比較検証テスト

全ての移行対象の比較検証テストを実施(バッチ:JOB単位/オンライン:プログラム単位)

■資産棚卸し

- ・アプリケーション全資産を対象に棚卸しを行い、不要資産および移行資産規模を明確にします。

■調査・分析(移行性検証)

- ・異種言語変換のための調査を行います。
- ・アプリケーションや言語等の特性を把握し、生産性の把握、移行設計計画の策定を行います。
- ・パイロット移行により、移行ツールの適合性を把握します。

■移行/比較検証テスト

- ・移行ツールにより変換を実施します。(ツールで変換できないリソースは、手作業変換にて対応)。
- ・現状システムと移行後システムとの実行結果を比較し一致を確認します。

■顧客支援

- ・変換作業後、お客様側で行う
 - ①総合テスト
 - ②運用テスト
 - ③本番移行を、作業支援いたします。

■成果物/一例)

- ①資産棚卸し:資産一覧、資産関連図
- ②システム構成調査:H・S/W構成、I/F、運用環境
- ③移行性調査:AP特性、データ特性、移行方針、データ移行方法、移行テスト方法
- ④サンプル移行報告書
- ⑤移行実施計画書
- ⑥移行結果報告書

